

震災の記憶の風化についての研究

～昭和南海大地震（1946（昭和 21）年）の経験を通して～

1200396 石川優也

高知工科大学 経済・マネジメント学群

1. はじめに

近年、世界的にみても災害多発国として知られる日本では、2011年3月11日の東日本大震災や8月の九州北部豪雨、9月上旬に関東広域を襲った台風15号など、2019年も甚大な被害をもたらす自然災害が相次いでいる。

東日本大震災では、亡くなった人の6割以上が60歳以上の高齢者であった。さらに障害のある人の死亡率は、住民全体の2倍だったことが分かっている。これは自力で避難が難しい人が逃げ遅れたことが原因の一つだと考えられている。また、過去の大規模な豪雨災害において「被害を拡大させた要因の1つ」として指摘されるのが避難率の低さ、すなわち「逃げ遅れ」である。全国で200人以上の死者を出し、「平成最悪の水害」といわれた2018年7月の西日本豪雨でも、やはり逃げ遅れが大きな課題となった。

先行研究をみると、「海岸利用者の津波に対する防災意識の経年低下」（2013年）の研究では、海岸利用者の避難開始時間は、大震災以後すぐに避難する人は若干増加しているが、未だにすぐに避難しない人が4割近くもいる。『津波から身を守る基本は、素早く逃げること』であり、避難遅れは多数の犠牲者を出す可能性が高いことが分かっている。

危険認識度については、津波に対して身の危険を「強く感じる」と答えた人は大震災以後増加しているが、「少し感じる」と答えた人は震災以後は増加していたが2年が経過した2013年にはかなり減少している。また、海岸利用時の津波に対する意識についても、「意識している」、「どちらか」と意識している」と答えた人は大震災直後には増加していたが、2013年にはかなり減少している。しかし、意識している人は最も多い大震災直後でも半数以下であり、海水浴場利用者は津波は危険であるという認識を持っ

ているが、利用時には津波に対する意識の薄いことが分かった。特に、こうした認識や意識に対して経年低下の著しいことが明らかとなったことが分かっている。

また、「2002年7月豪雨により発生した釜石市土砂災害の住民意識調査」（2010年）では、2002年7月の土砂災害では釜石市を中心に短時間に局所的に集中豪雨となった。そのような状況で避難した人の割合は松原町、駒木町、浜町の3地区で46%で、避難の動機は消防等からの指示によるものが多かった。一方避難しなかった人の大半の理由が、自分の家は大丈夫だろうという（「正常の偏見」と呼ばれる）土砂災害への危機感が低い認識からのものだった。なお、住民への聞き取りからこの場所は60年以上土砂災害のなかった場所である。

以上の既往研究をまとめると、時間がたつにつれ、記憶は薄れ、危険認識度は低くなっていく。また、被害を経験しているのとしていないのでは、危機感が違うことが分かっている。

そこで、1946（昭和21）年に発生した昭和南海地震で当時被害にあった方たちの記憶が風化していく過程を探ることができれば、より多くの高齢者が災害時に避難行動を起こすことにつながるのではないかと考えられる。

2. 目的

本研究では、今回インタビュー形式のヒアリング調査を行い、高齢者の地震被害の認識と避難行動の傾向を明らかにして、震災時にどうすれば避難行動に結びつけることができるかを検討する。

3. 研究方法

3.1 昭和南海地震の概要

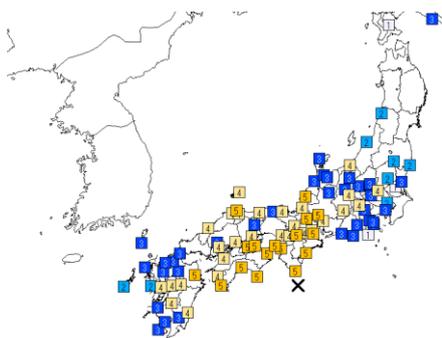
昭和南海地震は、1946年（昭和21年）12月21日午前4時19分過ぎに潮岬南方沖（南海トラフ沿いの領域）78キロメートル（北緯32度56.1分、東経135度50.9分）、深さ24キロメートルを震源としたM8.0の地震である。1946年南海地震とも呼ばれ、単に南海地震といえばこの地震を指すことも多い。南西日本一帯では地震動、津波による甚大な被害が発生した。

高知県の被害は、沿岸には4～6mの津波が押し寄せた。死亡・行方不明者679人、負傷者1,836人、家屋全壊・流出4,846戸など大きな被害が出た。また、室戸で1.27m上昇、須崎・甲浦で約1m沈下。高知付近で田園15平方kmが海面下に没した。

なお、高知県全体に対する高知市の被害の割合は、死者で約34%、負傷者で約18%、家屋の全壊で約24%、半壊で約21%、浸水で約34%、道路陥没で2%となっており、高知県下でも特に高知市は大きな被害を受けていることが分かる。

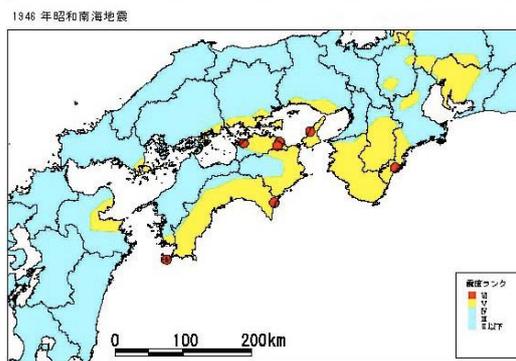
高知市では堤防が切れたこともあり、市街地が浸水し12日間も冠水したままであったという記録が残っている。

なお、津波の到達時間は、地震が発生してから、高知県の東部で数分～10分、中部から足摺付近にかけて15分～20分程度、足摺岬以西で20分～30分程度、宿毛付近で40分程度である。



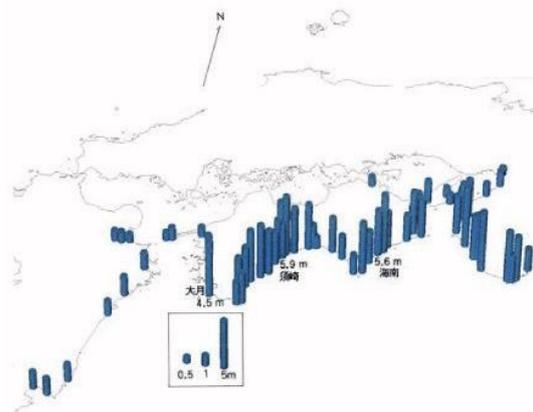
【図1 各地の震度】

（資料：地震調査研究推進本部）



【図2 1946年昭和南海地震の震度分布】

注：1946年昭和南海地震は気象庁(1968)・中央气象台(1946)を基に作成ものを使用。限られた震度観測結果を参照して等震度線を引いたもの。また、局地的な震度分布も可能な範囲で表示した。但し、1946年昭和南海地震の震害は高知県中村町(現、中村市)が一番ひどく、住家倒壊の割合が高かったとされており(宇佐美, 1996)、震度VIになっていると考えられるが、震度推定値がないため、図1には示していない。なお、図1の赤丸は地点を示しており、拡がりを示していないことに注意。



【図3 昭和南海地震による各地の津波高さ】

（出典：「地震調査研究推進本部」）

3.2 調査概要

本研究では、現在、香南市、須崎市に住んでいる昭和南海地震経験者を対象に6人にインタビュー調査を行った。また、「海岸利用者の津波に対する防災意識の経年低下」(2013年)で利用されたアンケートの項目の質問も用い、そのインタビュー内容を書き起こし、分析することにより、高齢者が逃げない要因となるものを探る。

- 1 人目：A さん（77 歳・女性/香南市）
 2 人目：B さん（79 歳・女性/香南市）
 →2 人同時（2019/10/25:約 127 分）
 3 人目：C さん（79 歳・女性/須崎市）
 （2019/11/30:約 85 分）
 4 人目：D さん（86 歳・男性/須崎市）
 （2019/11/30:約 90 分）
 5 人目：E さん（76 歳・男性/香南市）
 （2019/12/04:約 55 分）
 6 人目：F さん（90 歳・男性/香南市）
 （2019/12/17:約 56 分）

4. 3 質問事項

【一般情報】

- 属性：被災前と後
- 対策：被災前と後
ハード面とソフト面
- 被災後の生活意識（対策）を時系列で（5 年後、10、20、30、…現在に至る）
- 被害当時の心境及び被害状況
- 昭和南海地震を経験して次の南海トラフ地震にどう対応していけばよいか（心構え）

【津波被害関連情報】

- ・ 避難開始時間
- ・ 避難手段
- ・ 津波発生時の避難場所
- ・ 行政指定避難場所の周知度
- ・ 津波に対する危険認知度
- ・ 津波ハザードマップの認知度
- ・ 津波来週の可能性に対する意識
- ・ 津波情報の取得手段

4. 調査結果

4. 1 A さん（77 歳・女性）

現住所…香南市吉川町 870

地震発生当時住所…香南市吉川町 657

地震発生当時年齢…4 歳

●当時の避難場所…高台にある家の軒下

●避難方法…布団をかぶって態勢を低くする

←昭和南海地震が戦後すぐの出来事であったため、震災当時は、空襲の記憶がフラッシュバックし、とっさにとった行動だった。戦後間もない頃だったことから世の中が混乱しており、地震対策は一切していなかった。また、さらなる混乱を防ぐため、情報もほとんど入ってこなかった。（政府もしくは GHQ）

●被害状況…

- ・ 停電
 - ・ 大した被害はない
 - ・ 津波もそれほどきていなかった。（膝上あたり）
 - ・ 家の近くの川が逆流していたが、台風の時の方が被害が大きかった
- しかし、家の前の田んぼは水没し、あたりが湖のようになっていた

●現在の避難場所…

- ・ 部落ごとで決められた避難タワー
- ・ 同じ地区に 8 つの避難タワーが密集している

●昭和南海地震を経験して南海トラフ地震に備えていること

【ハード面】

履物の準備

- ・ 水の確保
- ・ 薬・薬手帳

→最低限の備えしかしていない

理由) 避難場所にいろいろあるから

・ 家をリフォームする意識まではなかった
理由) 経済的な負担

崩れたらしょうがない

【ソフト面】

津波に対しての恐怖から早く逃げようとする意識

←昭和南海地震の時にはそれほど津波の影響は受けていないため、それほど恐怖感や危機感を持っていなかったが、東日本大震災の津波の映像をみて初めて津波が恐ろしいと語っていた。

⇒対策に関して、備えは最低限しているがいざ震災が起こった際は本当に逃げられるのかわからない。もしかしたらその場から動けないかもしれない。そうなってくるとここで命を落としてしまうかもしれないと覚悟を決めている。また、初めからここ（自宅）から動かないと決めている人もいる。それは「土佐のいごっそう」（＝頑固…男性）という気質・性格がゆえになっている。

●その他

- ・ ハザードマップの周知…定期的に役所から改訂版が送られてくる
- ・ 防災訓練への参加（年1回）

→最近では坂道を上る際の足腰の負担からあまり行かなくなっている。

この方のインタビュー調査からは、戦時中での経験が地震の避難行動に咄嗟に現れることが分かった。また、昭和南海地震では津波被害をそれほど受けていないため、津波に対する恐怖感がなかったが、東日本大震災の津波の映像をテレビで見て初めて恐怖感を抱くようになったとおっしゃっていたことからテレビがもたらす影響力は極めて強いということが分かった。

4. 2 Bさん（79歳・女性）

現住所…香南市吉川町 657-1

地震発生当時…高知市田淵町(現・知寄町北面)

地震発生当時年齢…6歳

●当時の避難場所…天理教会

●被害状況…

- ・ 大きな被害は特にない
- ・ 家の梁が落ちて亡くなった人がいると聞いた/大八車に遺体を乗せて街を歩く
- ・ 被害は香南市とほとんど変わらない。高知市内は香南

市よりは被害が大きかった。

●その他

仮設住宅の存在…

- ・ バラック建築：リンゴの箱の板などを用いて作った仮設住宅
- ・ 市営住宅（藤波神舎：高知城 北面/現テニスコート）

◎昭和南海地震での被害/恐怖<日ごろの台風被害/恐怖

この方のインタビュー調査からは、Aさん同様、昭和南海地震では大きな被害を受けておらず、むしろ台風や大雨に対する恐怖感の方が強いと語っていた。

4. 3 Cさん（79歳・女性）

現住所…須崎市大間本町 17-23

地震発生当時住所…須崎市（旧 上分村）丙 遅越 192-2

地震発生当時年齢…5歳

●当時の避難場所…

寝室のある二階から一階へ

→一階で何も隠れたりせず、震えたりするだけだった。

近所の人…地割れがない竹やぶに逃げた人もいたという

●当時の被害状況…

- ・ 自分の家に近くにあるビニルハウスがあるところに帆船が津波によって上がってきっていた。
- ・ 自分の家に大きな被害はなかった

●発生当時の心境…

- ・ 震度7くらいはかなり強い揺れを体験
- ・ 階段が下りられない
- ・ 発生時期が冬であったため、「ねる」という防寒着をきて逃げた。

●現在の避難場所…

グランドゴルフ場（家から徒歩約10分ほどの山）もしくは家の裏手にある山（避難ルートあり）

→津波到達時間 約10分

●指定避難場所…須崎総合高校（家から少し遠い）

●昭和南海地震を経験して南海トラフ地震に備えていること

【ハード面】

- ・ 家具の固定
- ・ 就寝中に物が倒れてこないような家具の配置

→必要最低限の対策しかしていない

理由)

- ・ 経済的負担
- ・ 億劫という気持ち

【ソフト面】

- ・ 高いところに逃げる
- ・ 発生時は何も持たずに逃げる

→命が1番大事

●その他

- ・ 東日本大震災の映像をみて地震に対して恐怖感が増した
- ・ 避難訓練はあるが、億劫なため参加はしていない
- ・ ハザードマップは送られてくるが、情報量が多すぎるため細かいところまでは見ない

この方はインタビュー調査の中で、地震以外のこと（事故・病気）で身近な親しい人を何人か亡くされており、6人の中で最も死に対して敏感であった。また、地震対策や地震に対しての日ごろの生活意識も6人の中で最も緻密に計画されていた。しかし、一方で大規模な工事と費用を要するリフォームや避難訓練への不参加、ハザードマップを細部まで見ないということに関して前述したことへの矛盾点や疑問点が生じた。

4. 4 Dさん（86歳・男性）

現住所…須崎市大間本町

地震発生当時住所…須崎市浦ノ内立目

地震発生当時年齢…13歳（中学1年生）

●当時の避難場所…

家を出て、竹やぶへ（近所の人たちも結構来ていた）

●当時の心境…

- ・ 母親に起こされて起きた
- ・ 立っていることが難しいくらいのかかなり強い揺れだった

●当時の被害状況…

- ・ 自分の家では津波は被害はない
- ・ 津波で船が田んぼのところまで上がってきていた
- ・ 車が止まり、交通網が遮断されたため、しばらく高知市内の学校に通えなかった（現・丸の内高校卒業生）

●昭和南海地震を経験して南海トラフ地震に備えていること

【ハード面】

- ・ 家具の固定
- ・ 寝室に大きな家具は置いていない
- ・ 非常用リュックを枕元に置く

→ひとり身だからあきらめている

◎大がかりな対策はできることならやりたい気持ちはある

【ソフト面】

最悪を想定する

●その他

- ・ チリ津波の経験…1階床上浸水（畳がダメに）
- ・ 東日本大震災の映像→今はそれほど見ないが、起こった直後～しばらく見ていた

◎戦争の記憶はあるが震災時の避難行動と関係はしていない

この方のインタビュー調査からは、Cさんと同地区に住んでいるため、津波に対しての記憶や恐怖感に共通点が見られたが、やはり大きな被害を受けていないため、地震や津波に対しての恐怖感や危機感はあまり見受けられなかった。

津波に関しては、昭和南海地震よりも1960年のチリ津

波での被害が大きかったようである。

また、Aさんの話にあったが、彼の話からは戦争の記憶が必ずしも、震災の避難行動につながっているわけではないことが分かった。

また、地震や津波に対しての一定の恐怖感や危機感は見受けられるものの、対策に関しては、最低限のことをしかしておらず、あきらめている様子が見受けられた。

4. 5 Eさん (76歳・男性)

現住所…香南市野市町西野町 (アパート住まい)

地震発生当時住所…香南市吉川町 (本生寺の裏手)

地震発生当時年齢…3歳

●当時の避難場所…家から北の方角 (現・野市町) に逃げた (母親に背負われていた)

●当時の心境…あまり覚えていない

●当時の被害状況…覚えていない

※仕事をするうえで震災を意識してきた。

○太平住宅入社 (主にシロアリ駆除)

○47年前 シロアリ駆除の会社を設立

…当時は住宅ブームでそれ以前に建てられた家はシロアリ被害が酷かった

○昭和南海地震被害を県の資料から調査・勉強

→倒壊した家のほとんどはシロアリ被害が深刻化していた (特に中村や四万十は多かった)

○阪神淡路大震災で倒壊した家もシロアリ被害が深刻化していた

⇒ (i) 当時の殺虫剤 (農薬をベースにした10~20年と効果の長いもの) ←環境汚染の現因に
→効果が短いものになる→住宅ブームが去る→+αで耐震補強をすることに

(ii) 震災被害により、従来の建築物の構造 (メカニズム) の改善点・反省点があらわに新たな構造が生まれた

→自身が現在の耐震工事の請負会社を始めるきっかけになった (5、6年前)

●昭和南海地震を経験して南海トラフ地震に備えていること (生活意識)

【ハード面】

- ・ 寝具の近くにタンスなどは置いていない
- ・ 高いところに物を置かない

→ハード面での対策は煩わしいという気持ちや必要性を感じないということから、必要最低限のことしかしていない

【ソフト面】

→津波に対しては住んでいる場所は津波被害がないという想定のため、それほど危機感はない

●その他

- ・ 行政指定避難場所は周知している
- ・ ハザードマップ・津波浸水想定マップが送られてきて見るようにしている

この方は震災当時6人の中で一番幼かったため、震災の記憶をほとんど覚えていなかったが、彼は仕事をするうえで、震災を意識してきた。彼の話からは、仕事柄他人の命を救うことだが、彼自身の対策は現住所が津波被害を受けないという点も確かにあるが、6人の中で最も対策をとっていなかったため疑問が残った。

4. 6 Fさん (90歳・男性)

現住所…香南市吉川町吉原 2990-1

地震発生当時住所…香南市吉川村 (現・吉川町) 吉原 2964-4

地震発生当時年齢…17歳

●当時の避難場所…住吉神社 (高台)

- ・ 「地震が来たら津波が来るから高いところに逃げなさい」 (幼い頃から教育)
- ・ 神様が守ってくれる

●当時の心境…地震発生時から2時間後、港の北側にある自分の家の田んぼの (イナグロ) を見に一旦下りる。する

と物部側から逆流してきた水が家の高さほどになって押し寄せてくるのを見た。

●当時の被害状況…

- ・ 家の被害はない
- ・ かなり強い揺れを経験

●現在の避難場所…

避難タワー（家から徒歩3分）

●昭和南海地震を経験して南海トラフ地震に備えていること

【ハード面】

避難リュックを玄関に置く以外はこれと（ハード面）してしていない理由)

- ・ あきらめている
- ・ 対策をしようという気持ちがない

【ソフト面】

半分諦めている

理由)

地震が来る頃には自分はこの世にいないだろうから

●その他

- ・ 情報手段はテレビ
- ・ 東日本大震災や海外の地震の映像を見て「地震は怖い」と感じた。
- ・ 防災訓練の参加は足腰への負担から参加していない。
- ・ ハザードマップは参考になるため、細かく見る

◎家族・孫の存在

「孫のためにも生きようとする気持ちはある」

この方のインタビュー調査からは、昭和南海地震以前から震災教育がある程度、されていたことが分かった。

また、Dさん同様、彼もまた、地震に対して危機感はあるものの、最低限の備えしかとっておらず、逃げることを諦めている様子が見受けられた。

今回、Fさんには家族・孫の存在について伺った。すると、孫について楽し気にお話ししてくださる様子が垣間見え、「お孫さんのために長生きをしようというお気持ちはありますか」という問いに対して、「孫のためにも生きようとする気持ちはある」ということをおっしゃっていた。

このことから、孫にあたる若い世代が災害に対して、どれほど危機感を持っているかが重要になると考える。

5. 共通点

6人のインタビュー調査からわかった共通点は以下のとおりである。

- ・ 昭和南海地震は戦後間もなかったため、震災教育はほとんど受けておらず、震災後も震災対策は経済的に厳しい家庭が多い点と震災被害が小さいために次に震災に対しての危機感があまりなかったという点からほとんどしていなかった。
- ・ 昭和南海地震では、大きな被害を受けていない。それよりも台風や大雨、特に戦争での被害が大きく、戦争の恐怖感の方が地震よりもおおきい。
- ・ 現在は、経済的な余裕がないため、家をリフォームするなどの大掛かりな対策はできないが、寝具の近くに非常用リュックを置いたり、家具の配置を変えたりするなど、自分でできる必要最低限の備えはしている。

6. 高齢者の昭和南海地震の認識の傾向

6.1 地震の捉え方および記憶の風化

人間の記憶は前の災害（戦争）の大きさと比較して発生した災害が小さい場合、前の災害の影響を強く受ける傾向があると考えられる

昭和南海地震ではそれほど大きな被害を受けておらず、地震が起きたのが太平洋戦争直後ということもあり、震災よりも戦争の恐怖感の方が強いことがわかった。また、6人とも自分でできる必要最低限の備えしかしておらず、十分な対策をとっていないことが分かった。このことから、震災よりも戦争の被害が大きいことが今後起こる地震の軽視につながっていると考える。

6. 2 メディア・映像が持つ影響力について

「海岸利用者の津波に対する防災意識の経年低下」(2013年)で津波防災意識の普及や啓もう活動には、テレビが最も有効な手段であるということがわかっている。そしてインタビューをしたほとんどの人が東日本大震災の津波の映像を見て恐怖感を覚えている。その映像を見たことにより、自分の身の回りの備えを見直そうとした人がほとんどであったため、メディアの持つ影響力は大きいと考える。しかし、情報は聞く人に関心がないと意味がない。震災対策に対して意識が高い人の要因には家族や子供・孫という存在や若い世代に対しての責任を感じているため生きることに向きだと考えられる。一方で70・80代は運任せなところがある。特に独り身の人は「誰にも迷惑をかけないだろう」という消極的な人は情報に対して関心がないと考えられる。

6. 3 孫・家族の存在

インタビューから、津波に対して危機感があるが、知識がないことが津波への対策がおろそかになっている原因ではないかと考えられる。また、それが大雨、洪水なら果たして逃げるだろうか。そこで高齢者を逃げさせるためにはどうしたらいいのかということに関して、家族、とりわけ孫の存在は高齢者にとって大きいのではないかと考える。Fさんにインタビューしたところ、「孫のためにも生きようとする気持ちはある」ということをおっしゃっていた。そこで、孫にあたる若い世代が震災、災害に対してどれほど危機感を持っているのかということが高齢者を震災から守るカギになってくるのではないかと考える。

7. 避難行動を高めるための方策

- ・テレビ媒体による津波被害の深刻さを伝達する。

ヒアリング結果より、高齢者はテレビの映像を重視していることが示されている。そこで、高齢者の視聴が多いと考える番組の前後に災害の深刻さと避難を呼びかけるCM

を流すところが有効だろう。

- ・家族から津波被害の深刻さを伝達する。

ヒアリング結果から、高齢者は若い世代である子や孫の意見を聞く傾向があることが示されている。さらに、この世代は、東日本大震災の津波被害の映像をテレビやインターネットから得ており、被害行動を日常から心掛けている。このことから、震災発生時に、子や孫から高齢者とともに避難をすることを推奨することが望ましいと考える。

方策としては以上になるが、インタビュー調査から分かったように香美市、須崎市における高齢者の震災の危機感を決して高いわけではない。そのため震災を実際に経験している人の体験談をどれだけ自分の意識の中に危機感として取り入れるか、また震災を経験していない私たちがいかに震災に対して真剣に向き合えるかが、高齢者を救えることにつながってくるのではないだろうか。

8. 引用文献

- 「海岸利用者の津波に対する防災意識経年低下」島田広昭・石垣泰輔・武藤祐則・馬場康之・大年邦雄 土木学会論文集 B3 (海洋開発) 2014
- 「2002年7月豪雨により発生した釜石市土砂災害の住民意識調査」井良沢道也・遠藤康多佳 岩手大学農学部演習林報告 41号 P. 259~272 2010年6月
- 図2 1946年昭和南海地震の震度分布
(<https://www.jishin.go.jp/main/kyoshindo/01b/f05-2.htm>)
- 地震調査研究推進本部
- 昭和南海地震について
(<https://www.pa.skr.mlit.go.jp/kouchi/F/pdf/70panel.pdf#search=%27%E6%98%AD%E5%92%8C%E5%8D%97%E6%B5%B7%E5%9C%B0%E9%9C%87+%E6%AD%BB%E8%80%85%E6%95%B0%27>)
- 高知県に影響する地震津波について
(<https://www.ima-net.go.jp/kochi/etc/jisin/jisin.html>)